

ずん Zooっと平川

くまのこみやい / 鹿児島市平川動物公園

なんでもランキング くらべんみやい 寒さに強いランキング

★ ホッキョクグマ

生息する北極圏は、真冬に気温が-40℃にもなる極寒の世界。厳しい寒さに耐えるため分厚い脂肪と中が空洞になっている体毛で体温を逃がさないようにしています。温暖な鹿児島は真冬でも暑過ぎるかも…。



★ シンリンオオカミ

北アメリカのカナダ、アラスカの森林地帯に生息しており、スリムな体型には寒さの厳しい環境ですが、体を覆う上毛と、その下に生える保温に優れた下毛で寒さをしのぎます。かの有名な童謡のように、どんなに寒くても喜んでかけまわっています…

★ オジロワシ

冬鳥として日本に飛来するオジロワシは、翼を広げると2mを超す大型の猛禽類です。オホーツク周辺に流氷が接岸する時期には、鋭い爪で魚を捕らえ、流氷の上でエサを食べていることもあります。フサフサの羽毛のおかげで寒さなんてへっちゃらなんじゃないかな!



特集1

コアラがやってきた!

特集2

ヒツジ

特集3

レッサーパンダの名前が決まりました!



特集1

29年ぶりにオーストラリアから

コアラがやってきた

2014年10月2日、オーストラリアから、オス2頭、メス1頭の計3頭の
コアラがやってきました。
平川動物公園にとってオーストラリアからのコアラの来園は、29年ぶりの
ことです。

今回の来園のため約1週間、導入先であるドリームワールドに職員2名(桜
井獣医師、永榮飼育員)を派遣し、飼育研修を通して、その生態やユーカリの採
食状況等を調査してきました。

やってきた3頭の紹介と飼育研修の様子をお伝えします。



ドリームワールドってどんなところ？

ブンダ、フランク、ブランディが飼育されていたドリームワールドは、オーストラリアクィーンズランド州の観光地ゴー
ルドコーストにある、遊園地と動物園が一緒になった複合型のテーマパークです。なんと、年間に100万人ものお客
さんがやってくるそうです。

動物園では、主にオーストラリアの固有種(※1)が飼育されていて、一番人気はやはりコアラ。抱っこして写真を撮
ることができるコーナーは、ひととき多くのお客さんでにぎわっていました。「コアラの抱っこ」は、オーストラリアで
もクィーンズランド州の動物園でしか体験できません。有料ですが、収益金は、野生動物保護プロジェクトへ寄付され、
コアラ保護に役立っています。

展示場では、とても近くで観察することができ、そこではお母さんの背中におんぶされている赤ちゃんコアラも見
ることができます。毎日午前11時から、飼育員による解説が行われていて、ちょっとだけコアラに触れることもできます。

バックヤードでは、もっと多くのコアラたちが飼育されていて、全部でなんと63頭！右も左もコアラだらけで圧倒さ
れてしまいました。

※1「固有種」とは、その地域にしか生息していない種のこと。



▲コアラの解説



▲赤ちゃんの体重測定



ようこそ「ブンダ」、「フランク」、「ブランディ」

オーストラリアからはるばる平川動物公園にやってきた3頭のコアラたちを紹介します。



ブンダ(BOONDA)
オス 4歳

BOONDA

2010年9月15日生まれ
ユーカリをモリモリ食べるとっても元気な男子。
元気すぎて部屋の柵を乗り越えてしまうほどのやんちゃっぷり。
来園早々に飼育員を驚かせてくれました。



フランク(FRANC)
オス 4歳

FRANC

2010年11月9日生まれ
のんびりマイペースな男子。
まん丸お顔とつぶらな瞳がチャームポイント。顔を見ているだけでこ
らを笑顔にしてくれる、不思議な魅力の持ち主です。



ブランディ(BRANDY)
メス 3歳

BRANDY

2011年12月13日生まれ
抱っこ大好き。甘えん坊な女の子。
近づくと、「抱っこして〜」と手を伸ばしてくることがあります。その可
愛いしぐさに飼育員はメロメロです。



▲バックヤードのコアラ



▲コアラと写真撮影

ドリームワールドのコアラ保護活動

ドリームワールドは、コアラの保護活動にも積極的に取り組んでいました。
主な活動に、「野生コアラの保護」、「生息環境の保護」、「保護活動の啓発」、「人
工授精の研究(大学との連携)」があり、鹿児島市もその保護活動に貢献して
います(※2)。

オーストラリアでは、宅地開発による森林破壊が急激に進んでいるため、
多くの野生動物の生息環境が失われています。コアラの生息数も減少してい
て、2010年のオーストラリア環境省のデータによると野生コアラの生息数
は、推計20万頭。このままでは野生のコアラは見られなくなるかもしれま
せん。コアラは、環境保護の大切さを訴えるメッセンジャーとして、重要な
役割を担っていました。

※2 鹿児島市は、平成26年度から3年間、毎年5万オーストラリアドル(計
15万ドル)をドリームワールドコアラ保護基金に寄付することを決
定しています。



コアラ保護啓発パンフレット



コアラの人工授精の研究

見つけたっ！野生のコアラ!!

研修中に連れて行ってもらった、ユーカリの林。そこで、念願の野生のコアラに出会うことができました。
ユーカリ林のすぐそばには道路や民家もあり、一見野生動物が暮らすには不便そうな場所。そんな環境でもユーカリの木の上で悠々と暮らすコアラに出会えたことで、「人間と野生動物との共存」について、考える良い機会となりました。



コアラの輸送～オーストラリアから日本へ～

今回のコアラ輸送のためにドリームワールドでは特別製の輸送箱を準備してくださっていて、箱には、オーストラリアのアボリジニーの方々によるとも素敵なペイントが描かれていました。（※輸送箱は、コアラ館に展示中です）

ドリームワールドから平川動物公園まで、飛行機やトラックに乗って運ばれてきたコアラたち。なんと、33時間もの長旅でした。輸送中はとても緊張していて、ユーカリの採食もほとんど見られませんでした。到着後は準備された新鮮なユーカリを食べてくれて、待機していた職員一同、ほっとしました。

現在、3頭は、平川の環境にも良く慣れて元気に過ごしています。



▲コアラの輸送箱



▲輸送中のコアラ

これからの日本のコアラ飼育～繁殖へ向けた取り組み～

コアラが日本に初めてやってきたのは、1984年10月25日。東京都多摩動物公園、名古屋市東山動植物園、そして、鹿児島市平川動物公園に同時に贈られました。現在全国で8つの動物園が飼育していますが、必ずしも順風満帆であるとは言えない状況です。

国内のコアラ飼育頭数は、1997年の96頭をピークに年々減少を続けており、2014年8月には42頭となっています。平川動物公園では、1997年に27頭を飼育していましたが、2014年9月末には8頭にまで減少しています。その理由としては、新規個体の導入が困難であったために血縁が濃くなっていることなどが考えられています。

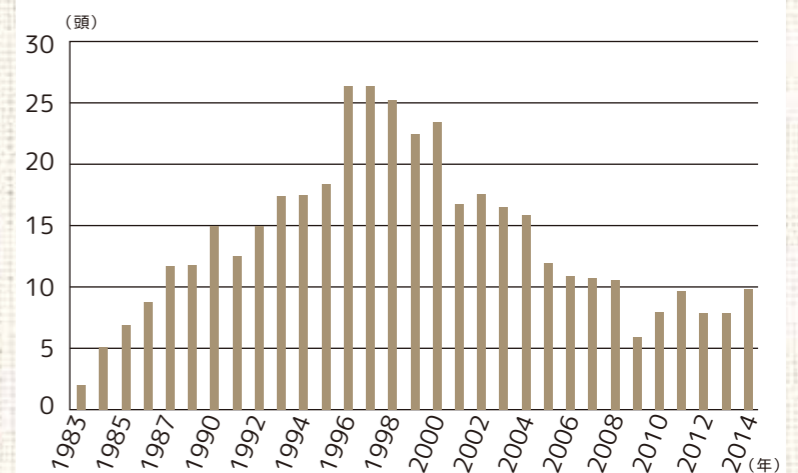
このような状況で、動物園もただ手をこまねいていたわけではなく、これまでもペアを作る目的で交換やブリーディングローン(繁殖のための動物の貸借)が積極的に行われています。現在は、ブリーディングローンにより、平川動物公園からオスの「ウルル」を神戸市立王子動物園へ、オスの「ユウキ」を横浜市立金沢動物園へ、そして、王子動物園のオスの「ピックス」を本園へ移動し、それぞれの園で繁殖を試みています。

加えて、新たな血統の獲得のためオーストラリアから創始個体＝ファウンダー(※3)も導入されています。昨年10月には本園に3頭、東山動植物園に1頭、また、今年初めには埼玉県こども動物自然公園に3頭が来園し、大きなニュースになりました。

今後、期待されるのはやはり「繁殖」です。しかし、ただ数を増やせばいいというわけではなく、血統の管理や動物園の枠を超えたペア作り、そして、増えた個体を適切に飼育するための施設の整備やユーカリの確保が大切になってきます。そのためにも、今回のオーストラリア研修で学んだこと、体験したことを活かしながら、より多くの人々にコアラやその生息環境の現状について、自然環境保護の大切さについて伝えていきたいと思っています。

※3 野生由来か海外の飼育施設で生まれ、国内に祖先がいない個体

平川動物公園のコアラ飼育頭数(平成26年12月現在)



計画的にペアリングを実施しています。



ブリーディングローンのため輸送箱に収容したウルル



ユーカリの管理も欠かすことのできない大切な仕事です。



当園で繁殖したメスのココロ

ヒツジ



2015年は未年(ひつじどし)!今回は今年の干支であるヒツジに注目します!

平川動物公園には5頭のヒツジがいます。



ヨーコ♀ 2008.4.5生
額にうっすら白い毛が生えて
いるよ!



ミツオ♂ 2009.3.25生
額に白い毛があるよ!唯一の
男子。



ダイヤ♀ 2008.3.16生
膝に白い毛が多く、まるまると
しているよ!



ミミ♀(左)
2007.3.3生
顔の形の整った一番美
人な女の子!

チョコ♀(右)
2006.2.27生
5頭の中で一番小柄。
ミツオのように額に白
い毛があるよ!

ヒツジの種類

平川動物公園にいるヒツジは、顔と足が黒いのが特徴です。サフォークという種類で、イギリス原産、肉用として家畜化されたヒツジです。肉用種ですが、サフォークの毛は密生しておりとても暖かいです。



ヒツジ観察ポイント

目

よく見ると黒目が横長!

口

上の前歯がない!口をもぐもぐと動かしているのは、食べた植物の繊維を奥歯ですりつぶすため!

鳴き声

「メー」と低い声で鳴くよ!一緒にいるトカラヤギとよく似た鳴き声をしています。

肌

顔と脚の黒いサフォーク種ですが、白い毛の地肌はなんとピンク!

毛

一生伸び続ける。水をはじくように、脂を含んでいる。

脚

偶蹄類に分類され、蹄は前脚2個、後脚2個です。

食べ物



ヒツジは草食動物です。動物公園では、乾燥させた牧草(乾草)や、季節によっては青草をメインに与えています。不足した栄養を補うために、草食動物用のペレット(配合飼料)も与えています。

ヒツジの不思議



1頭分の毛。約3kg!
1年で5~10cmも伸びるよ!

ヤギと比べて特徴的なのは、毛がモコモコなところ!一生毛が伸び続けるように改良された動物です。毛はウールと呼ばれ毛糸やフェルト、ふとんの綿として利用されます。動物公園では、夏前に毛刈りを行い、暑い夏を乗り越えます。

飼育員からひとこと

ふれあいコーナーで、トカラヤギと一緒ににぎやかに「メーメー」と鳴いています。毛刈り前の長いモコモコの毛、毛刈り後の短くなった毛など、季節によって変わるヒツジたちとふれあうことができます。未年にぜひ!会いに来てください。

担当者:角田・川久保





特集3

レッサーパンダの こどもたち 名前が決まりました!

2014年6月12日に生まれたオスとメスの2頭のこどもたちの命名式が11月30日に行われました!当日はあいにくの雨模様でしたが、たくさんの人にお祝いしていただきました。



応募総数 1575 票の中からオスは「キラ」、メスは「ソラ」に決まりました。命名者のお二人には記念品をプレゼント。素敵な名前をつけてくださりましてありがとうございました!



生まれたときは約100gだったキラとソラも...



大野園長(左)と命名者の方々。



キラ
3.5kg



ソラ
3kg

これからも平川うまれのキラとソラをよるしくおねがいします!



新しい仲間が やってきた

~リスの森に新たに3種類の鳥たちが仲間入りしました!~



ナナクサインコ

オウム目オウム科

分 布 オーストラリア南東部

オーストラリア固有種で、緑色を基本としたカラフルな色彩が特徴です。エサは植物の種や昆虫などで、主に地上で食べます。リスの森では「ピヒョ!ピヒョ!」と、美しい鳴き声でよく鳴いており、離れた場所からでもよく聞こえます。巣は樹洞内につくり、メスは卵を5個ほど産みます。

野生種をコンパニオンバードとして品種改良されたものもいます。

hirakawa zoological park



ゴシキセイガイシンコ

オウム目オウム科

分 布 オーストラリア、ニューギニア

オーストラリアを代表するインコで、原色の赤や黄色、青色が鮮やかな色彩が特徴です。エサは花の蜜や花粉、果実が主食で、蜜を吸いとるのに適したザラザラした舌をしています。巣は樹洞内につくりますが、外敵が少ない環境では地上にもつきます。大好物のハチミツを持っていくと、一目散に寄ってきて器用に食べる様子を見ることができます。

大きくてザラザラした舌が特徴です

hirakawa zoological park



コジュケイ

キジ目キジ科

分 布 中国南部、台湾、東北地方以南の日本各地

平地から低山の、やぶ地や林に生息します。日本には本来生息せず、飼育されていた個体や狩猟用に放鳥された個体が定着しています。巣は茂みにくぼみを掘り、4~5個を産卵します。体色がまわりの草木に溶け込む保護色をしており、じっとしているときはなかなか見つけることができません。繁殖期以外には群れで行動し、夜間は樹上で眠ることが多いです。

hirakawa zoological park

イベント情報

動物公園で人気のイベントを紹介します！

ミシシッピワニのお食事タイム

開催日時：土日祝日の午後2時から実施
開催場所：は虫類・夜行性動物館

普段の様子



エサの時間は
すごい迫力です！

普段はじっとしていることが多いミシシッピワニですが、エサの時間にはその巨体からは想像できないほどのスピードで、エサに向かってジャンプを繰り返します！飼育員は簡単には食べられないように、何度もエサを吊り上げワニの気持ちを高ぶらせていきます。大きな口でエサをかぶりつく様子とガラス越しに響く振動をぜひお楽しみください！

ペンギンのお食事タイム

開催日時：毎日午後3時から実施
開催場所：フンボルトペンギン展示場



愛らしい姿とよちよち歩きでとっても人気があるペンギン。そんなかわいいペンギンたちのエサの時間を飼育員の解説と一緒に楽しみいただけます。ガラスビューからは水中での食べる様子や素早く泳ぐ姿もご覧いただけます。また、時期によってはペンギンのお散歩も実施することがあります。きっともっとペンギンのことが大好きになること間違いなしですよ！

松元飼育員が！ アフリカに行ってきました！

平成26年9月12日～21日までの間、アフリカのタンザニアに行きました。今回は、観察できた動物たちや実際に現地で行っている密猟問題などについてご紹介します。

★タンザニアってどんな国？

人口は約4600万人で国土面積は日本の約2.5倍、主要産業は農業です。数多くの国立公園、動物保護区が存在し、北東部にはアフリカ最高峰である標高5,895mのキリマンジャロがそびえています。

・訪問地1:ゴンベ国立公園

タンザニア西部・タンガニイカ湖畔にあり、チンパンジーを主要保護動物として、1968年に設立された国立公園です。チンパンジーを初め、アヌビスヒヒやアカコロブスなど様々なサル類を観察する事が出来ました。



▲チンパンジー



▲チンパンジーが暮らす森

・訪問地2:セルー動物保護区

タンザニア最大の動物保護区で世界遺産にも登録されています。面積は約5万km²で九州の約1.4倍にもなります。ライオン、キリン、カバ、ヌー、アフリカゾウなど、多種多様な動物たちを観察する事が出来ました。



▲ライオン



▲アフリカゾウ

★密猟問題について

2008年、セルー動物保護区内に約40,000頭いたアフリカゾウは2013年時点で約13,000頭にまで減少しています。象牙を狙った密猟が原因です。保護区内は約300人のレンジャーが巡回を行っていますが、面積が広く取り締まりが追いついていないのが現状です。このままでは、近い将来アフリカゾウが絶滅してしまうかも知れません。日本で暮らす私たちに出来る事は一体何でしょうか？



▲巡回中のレンジャー

<タンザニア旅行の詳細情報は平川動物公園HPまで→
<http://hirakawazoo.jp/zooblog/>>

担当者：松元